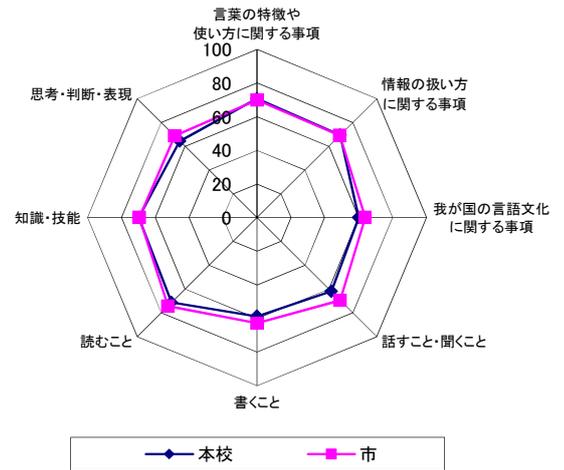


宇都宮市立明保小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.8	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	69.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	62.1	69.5	71.5
	書くこと	58.8	62.8	67.1
	読むこと	71.3	74.4	73.7
観点別	知識・技能	69.8	69.4	71.9
	思考・判断・表現	64.4	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

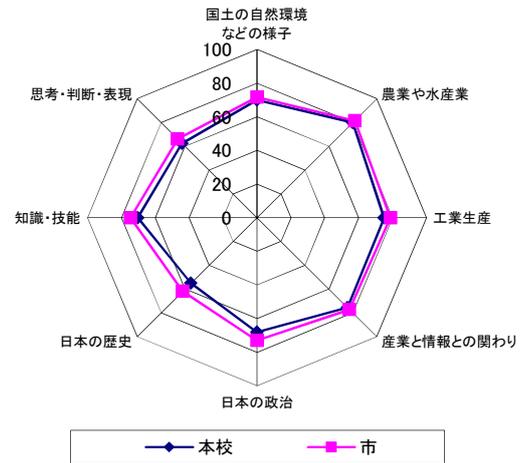
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は70.8%で、市の平均を0.9ポイント上回った。 ●5・6年の漢字の読み書きの問題については、ほとんどの漢字で市の平均を下回った。 ●文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う問題では、正答率が65.0%で、市の平均を3.3ポイント下回った。	・漢字の読み書きについては、漢字スキルやまとめのテストを中心に繰り返し行うことでしっかりと定着させるように支援する。また、授業中の辞書の活用、国語に限らず文章を書く際には、文脈に沿った漢字を使うことを意識させ、日常的に使うことができるように支援する。 ・漢字や言葉のステップアップを活用して、漢字や言語に関する復習を進めていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は69.4%で、市の平均とほぼ同程度だった。 ○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書いているという問題で市の平均とほぼ同程度だった。	・日記指導や作文指導、説明文の要約など目的を意識しながら簡単に文章をまとめるという活動を取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は60.0%で、市の平均を3.8ポイント下回った。 ●漢字の由来や和語、漢語、外来語を問う問題では、市の平均を3.8ポイント下回った。	・漢字の読み書きについては、引き続き、国語に限らず他教科においても文章を書く際に既習の漢字を意識させて日常的に使うことができるよう支援する。 ・我が国の言語文化についての関心を高めたり、知識を身に付けたりできるよう、俳句・短歌作りや百人一首などを授業に取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は62.1%で、市の平均を7.4ポイント下回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が57.5%であり、市の平均を8.6ポイント下回った。	・相手の意図を考えながら聞くことが課題と見られる。今後は、相手の意図を考えながら聞くことや意図を明確にして話することに重点をおいて話し合い活動を実践していく。
書くこと	平均正答率は58.8%で、市の平均を4.0ポイント下回った。 ●指定された条件の中で文章を書く問題では、ほとんどの項目で市の平均を下回った。	・国語科の授業を中心に、条件を満たしながら文章を書くという活動に引き続き取り組んでいく。また、文章を書く際の型を与えるなど、書くことが苦手な児童への支援もしていく。
読むこと	平均正答率は71.3%で、市の平均を3.1ポイント下回った。 ●説明的な文章において、文章全体の構成を捉える問題では、市の平均を3.8ポイント下回った。 ○物語の登場人物の心情について、描写を基に捉えている問題では、市の平均を4.8ポイント上回った。	・説明文の読み取りでは、文章全体の構成や論の進め方を中心に指導していく。 ・物語の読み取りでは、登場人物の心情や行動について描写を基に捉えることを指導していく。 ・文章から読み取ったことを基に自分の考えを書いたり、考えたことを共有したりする時間を授業の中に位置付け、自分の考えを広げられるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.0	71.6	67.5
	農業や水産業	80.0	81.5	82.1
	工業生産	75.0	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	75.6	77.2	68.2
	日本の政治	68.1	73.1	77.9
観点別	日本の歴史	55.2	62.0	65.8
	知識・技能	70.3	74.6	74.5
	思考・判断・表現	62.5	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

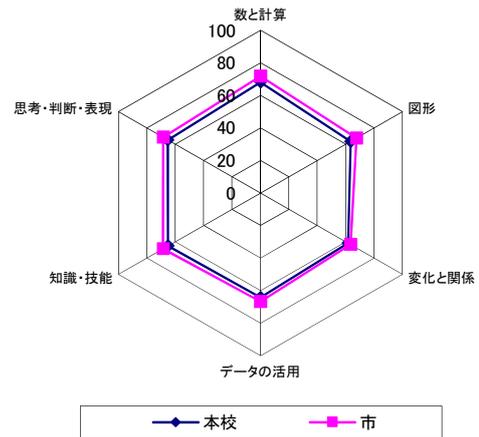
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は70.0%で、市の平均を1.6ポイント下回った。 ○日本の周辺の海洋名について問われる問題では、市の平均を3.1ポイント下回った。	・授業内において日本や世界の基本的な知識を定着させていく。また、地図帳を活用して、地名や位置関係の理解を深めていく。
農業や水産業	平均正答率は80.0%で、市の平均を1.5ポイント下回った。	・日本の農業や水産業について、基本的な知識だけでなく、資料を読み取ったり、特色について調べたりするなど、タブレット等を活用してより深い学びにつなげていく。
工業生産	平均正答率は75.0%で、市の平均を3.7ポイント下回った。 ○日本の工業生産の問題では、日本の輸出品の資料を読み取る問題で、市の平均を1.0ポイント上回った。	・日本の工業について、基本的な知識だけでなく、資料を読み取ったり、特色について調べたりするなど、タブレット等を活用してより深い学びにつなげていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は75.6%で、市の平均を1.6ポイント下回った。	・主に5年生での学習内容である。情報は、すでに現代の生活に深い関連があり、その役割や活用の仕方についての学習は必要不可欠である。今後も機会を捉え、復習を行うと共に、児童にとっての深い学びにつなげていく。
日本の政治	平均正答率は68.1%で、市の平均を5.0ポイント下回った。 ●日本国憲法や日本の政治について問われる問題では、ほとんどの項目で市の平均を下回った。	・憲法や国会の仕組み、裁判の仕組みなど児童にとって難しく感じられる内容については、具体例を工夫したり、デジタル教材を活用したりするなどして児童がイメージできるように支援していく。また、新聞やニュースから時事問題を取り上げ、授業で得た知識と結び付けることで、より深く理解させる。
日本の歴史	平均正答率は55.2%で、市の平均を6.8ポイント下回った。 ●歴史の問題では、ほとんどの項目で市の平均を下回った。	・日々の授業において楽しく復習に取り組めるようにしていく。また、単発の知識で終わらせるのではなく、時系列や時代の背景、出来事が起こった理由などと関連させて構造的に理解できるように支援していく。

宇都宮市立明保小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.1	71.8	76.2
	図形	63.5	67.7	67.8
	変化と関係	61.7	63.4	62.7
	データの活用	64.2	66.7	61.5
観点別	知識・技能	65.1	68.6	70.7
	思考・判断・表現	65.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

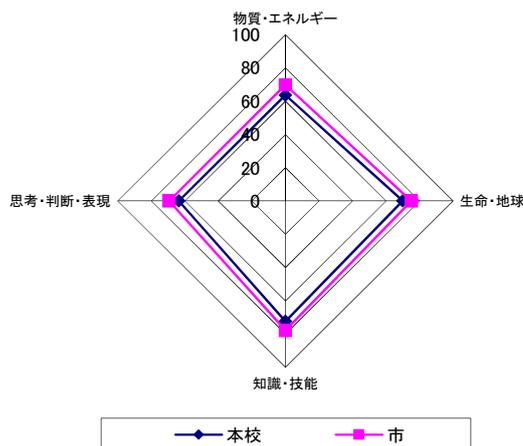
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は68.1%で、市の平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>●基本的な計算や立式など、分数、小数を扱う問題の多くで市の平均を下回った。</p> <p>●文字を使った式を表す場面を選ぶ問題では、市の平均を8.5ポイント下回った。</p> <p>●問題場面に合わせて分数の除法を選ぶ問題では、市の平均を14.8ポイント下回った。</p> <p>○何倍かを求める小数の基本問題では、市の平均を2.6ポイント上回った。</p>	<p>・小数点の移動や約分、通分が必要な小数や分数の基礎的な計算問題に繰り返し取り組ませていく。</p> <p>・文字を使って立式し、処理することに慣れていない児童がいるので、図や式での表現に触れながら、文字を使った問題に引き続き取り組ませていく。</p> <p>・分数の乗除の問題場面を数直線で表してから立式したり、場面を比較して立式の理由を探ったりする活動を取り入れ、式の意味について考える場面を設定する。</p> <p>・文章題から立式をする際に、自分の言葉で式の理由を説明するなど自分の考えを表現する活動を設定する。</p>
図形	<p>平均正答率は63.5%で市の平均を4.2ポイント下回った。</p> <p>●線対称な図形の対称の軸が何本あるか求める問題では、正答率が47.5%と低く、市の平均を8.4ポイント下回った。</p> <p>○三角形の外角を求める問題では、市の平均を2.4ポイント上回った。</p>	<p>・基本的な面積や体積を求める問題に継続して取り組ませていく。</p> <p>・対称な図形では、繰り返し線対称な図形・点対称な図形を作図したり、何度も基本問題に取り組んだりすることで定着を図っていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は61.7%で市の平均を2.7ポイント下回った。</p> <p>○どの小屋が最も混んでいるか単位量あたりの大きさを比べる問題では、正答率が81.3%であり、市の平均を1.3ポイント上回った。</p> <p>●時速を秒速や分速に直す速さの問題では、市の平均を4.8ポイント下回った。</p>	<p>・単位量あたりの大きさを比べるという考え方が身に付いていない児童が多いため、復習する時間を確保し定着や学び直しを図る。速さの問題では、道のり・速さ・時間の関係や時速・分速・秒速の意味や活用法をもう一度見直し、さらなる定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は64.2%で市の平均を2.5ポイント下回った。</p> <p>●円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題では、正答率が低く、市の平均を2.9ポイント下回った。</p> <p>●代表値を用いてデータを比べ、説明する記述式の問題では、正答率が24.7%と低く、説明が不十分だったり無解答だったりする児童も一定数いた。</p>	<p>・ドットプロットや柱状グラフ、度数分布表などの用語の意味の確認や読み取りの指導を続けていく。また、データの活用の単元だけではなく、全ての単元で考えの過程を記述したり、説明したりする活動を授業の中に取り入れていく。</p>

宇都宮市立明保小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.7	69.9	67.8
	生命・地球	69.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	72.4	77.8	78.4
	思考・判断・表現	63.6	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、65.6%であり、市の平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>○もののとけ方の問題では、全ての問題で市の平均と同程度か上回った。</p> <p>●ふりこのきまりについて実験を計画する問題では、正答率が43.6%であり、市の平均を13.8ポイント下回った。</p> <p>●電磁石の極と方位磁針の指す向きを答える問題では、市の平均を14.3ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・児童は、実験に対する意欲が高く、進んで取り組むことができるが、実験の目的が不明確なままであったり、結果から考察することが苦手だったりすることが見られる。そのため、目的を明確にし実験を計画したり、結果から分かることを文章で書かせたりすることで定着を図るようにしていく。また、基本的な知識については、タブレットなどを活用し、繰り返し問題に取り組みさせていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、71.2%であり、市の平均を3.5ポイント下回った。</p> <p>●だ液のはたらきを調べる実験の問題では、正答率が低く、市の平均を16.2ポイント下回った。</p> <p>●月と太陽の問題では、全ての問題で市の平均を下回った。</p>	<p>・実験の際には意識して対照実験の結果を比較したり、まとめたりするなどの学習活動を取り入れていく。また、学習内容の定着を図るために、タブレットなどを活用し、繰り返し問題に取り組みさせていく。</p>

宇都宮市立明保小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	宮っ子学カステップアップシートやAI型学習ドリルの活用を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	知識・技能に関わる問題における平均正答率は、市の平均を上回っているものもある。 「宿題はきちんとやっていますか。」「宿題をきちんとやり、期限までに提出している。」に肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年において90%以上である。しかし、「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」に対し、本校の目標とする時間に達していない児童が約5%の学年もあれば、約40%程度いる学年もある。 少人数指導や習熟度別学習を実施している5・6年生の算数に関して、「好きですか。」に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均よりも上回っている。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	授業の導入では課題を明確にし、展開ではソーシャルディスタンスの確保に留意しながらペアやグループで課題解決を行い、終末では学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「グループなどでの話し合いに、自分から進んで参加していますか。」に肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年で市の平均よりも5ポイント以上上回っている。また、「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる。」(3年生以上)に肯定的に回答した児童の割合も、市の平均よりも5ポイント程度上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<p>・国・県・市の調査において、「宿題はきちんとやっていますか。」「宿題をきちんとやり、期限までに提出している。」に肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年において90%以上である。しかし、「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」に対し、本校の目標とする時間に達していない児童が約5%の学年もあれば、約40%程度いる学年もある。家庭学習では、宿題をきちんとやる習慣が身に付いている児童が多いが、自主学習については時間や質に個人差が見られる。次年度は、「家庭学習の進め方」「家庭学習のすすめ」「家庭学習カード」等を活用し、自分で学年に応じた目標やしっかりと計画を立てて継続的に取り組むことができるような指導を充実させる。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。</p> <p>・市の調査において、「グループなどでの話し合いに、自分から進んで参加していますか。」に肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年で市の平均よりも5ポイント以上、「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる。」(3年生以上)に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均よりも5ポイント程度上回っており、授業における学習形態の工夫や話し合いの場の設定により、自分の考えを進んで発表し、友達と考えを練り合いながら思考を深めていこうとする態度が育ってきている。しかし、県の調査(4・5年生)において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」に肯定的に回答した児童の割合が約60%あり、書くことへの苦手意識が高い傾向にある。また、国・県・市の調査(4～6年生)とともに、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式の設定における正答率が市の平均と比べて低い傾向にある。次年度は、じっくり考え、しっかり書く・話す授業の充実を図り、表現力の育成に努める。</p> <p>・市の調査において、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」(3～6年生)に肯定的に回答した児童の割合は、どの学年も市の平均を上回っており、一人一台端末の活用については、学年に応じた活用の仕方へ慣れてきている。自分の考えをまとめ、発表・表現する場面や児童同士がやり取りする場面等での有効活用ができる学年もある。次年度は、発達に応じたルールをしっかりと指導しながら効果的な活用を継続し、情報活用能力を高めていく。</p>
